

# 福祉サービス第三者評価

〔令和5年度〕

## 評価結果報告書

株式会社MIRATZ  
MIRATZ大鳥居保育園

評価機関 有限会社エテルノ

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念） MIRATZ全園共通・未来の希望に向かって発展・向上する明るい元気な子どもを育む ・心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生、する子どもを育む ・みんなを親しみ愛し、太陽のように温かい心を持った子どもを育む</p> <p>（方針） 1. 当園は、良質な水準かつ適切な内容の保育・教育の提供を行うことにより、全ての子どもが健やかに成長するために適切な環境が等しく確保されることを目指す。 2. 保育・教育の提供にあたっては、子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進するため、利用子どもの意思及び人格を尊重して保育・教育を提供するよう努める。 3. 当園は、利用子どもの属する家庭及び地域との結び付きを重視した運営を行うとともにその支援を行い、都道府県、市町村、小学校、他の特定教育・保育施設等、地域子ども・子育て支援事業を行う者、他の児童福祉施設その他の学校又は保健医療サービス若しくは福祉サービスを提供する者との密接な連携に努める。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <p>1.MIRATZの掲げるMission/Vision/Value、全園共通保育理念や大鳥居保育園の運営方針、保育目標を理解して賛同し、その実現に向かって実践できる 2.向上心を持ちMIRATZと共に成長を目指す 3.就業規則を守れる 4.保育所保育指針に則った保育が実践できる</p> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <p>上記（1）に加え、常に子どもの最善の利益を考え、1.透明性2.言動の一致3.人格の尊重を意識し、「保護者の安心感の醸成」「子どもの教育の充実」「職員育成によるキャリア形成」「地域貢献の充実、進歩」に向かって実践、行動する</p>

調査対象

保育園に通っている園児10世帯9人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	10
利用者家族総数(世帯)	9
共通評価項目による調査対象者数	9
共通評価項目による調査の有効回答者数	9
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	100.0

**利用者調査全体のコメント**

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」22.2%、「満足」66.7%の計88.9%であった。

自由意見では、「先生の接し方、対応はとても良いです、優しい人ばかりで安心して預けられます。」「一人一人と平等に接し、子どもたちと同じ目線に対応してくれているところです。」「小規模ならではの手厚い保育と子ども同士の関係性も良く、楽しそうな雰囲気良くわかります。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「整理整頓」「病気やけが」「トラブル対応」「保育内容の説明」などの17問中8問が80%以上の支持を得ている。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「歌やダンスをするのが好きなようで一生懸命やってそうです」「夏祭りなど季節の楽しいイベントも企画してくださり、子どもたちもとても楽しんでいると思います」「色んな歌を覚えたりしたことを教えてくれたりします」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	8	1	0	0
「はい」の回答は88.9%、「どちらともいえない」の回答は11.1%であった。 自由意見では、「野菜を育てたり遊びの中で学んだりできてるようです」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「日々いろいろな献立で楽しそうです」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「今年は福祉活動したり、職場体験の中学生が来たりで多いと思います」という声が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	7	2	0	0
「はい」の回答は77.8%、「どちらともいえない」の回答は22.2%であった。 自由意見では、「快く対応していただけてます」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	6	3	0	0
「はい」の回答は66.7%、「どちらともいえない」の回答は33.3%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	7	2	0	0
「はい」の回答は77.8%、「どちらともいえない」の回答は22.2%であった。 自由意見では、「特に問題はないと思います」という声が寄せられている一方、「休みが取れるように、1ヶ月前には知らせて頂きたいです」という意見が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	7	0	2	0
「はい」の回答は77.8%、「いいえ」の回答は22.2%であった。 自由意見では、「連絡帳や送り迎えの時にやりとりできています」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	9	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「こまめに清掃、消毒を行っている姿がいつも見受けられ安心してます」という声が寄せられていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	7	2	0	0
「はい」の回答は77.8%、「どちらともいえない」の回答は22.2%であった。 自由意見では、「先生たちは優しいです。態度もいいです」という声が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	8	0	1	0
「はい」の回答は88.9%、「いいえ」の回答は11.1%であった。 自由意見では、「咳が出やすい時など頭を高く寝かしてくれたり、足の爪が割れやすいので対応していただいたりしています」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	1	0	0
「はい」の回答は88.9%、「どちらともいえない」の回答は11.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	7	2	0	0
「はい」の回答は77.8%、「どちらともいえない」の回答は22.2%であった。 自由意見では、「トイレトレーニングや給食での野菜に、本人の気持ちに沿ってチャレンジしてくれているようで助かります」という声が寄せられている一方、「先生によるかなと思います」という意見が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	6	1	1	1
「はい」の回答は66.7%、「どちらともいえない」の回答は11.1%、「いいえ」の回答は11.1%、「無回答・非該当」の回答は11.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	8	1	0	0
「はい」の回答は88.9%、「どちらともいえない」の回答は11.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	7	1	1	0
「はい」の回答は77.8%、「どちらともいえない」の回答は11.1%、「いいえ」の回答は11.1%であった。 自由意見では、「経営層がとても親身に話を聞いてくれ、迅速な対応をしてくれました。感謝しています」という声が寄せられていた。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	5	3	1	0
「はい」の回答は55.6%、「どちらともいえない」の回答は33.3%、「いいえ」の回答は11.1%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ-1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1		評点(〇〇〇〇)	
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		
確認済み	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		
確認済み	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
確認済み	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		
サブカテゴリ-1の講評			
<p>入園ガイドの配布やホームページで利用希望者に情報を提供している</p> <p>カラフルで図表が多く使われている入園ガイドは利用希望者が求める情報を1枚にまとめられている。表面には保育理念やデイリープログラム、年間行事予定等が掲載され、裏面には入園時の準備物や利用規約なども確認できるようになっている。また、運営企業によるホームページも用意されており、企業の想う使命感や職員の行動規範のほか、運営保育園一覧ページからは当園の情報も確認できる。園情報のページからはSNSも閲覧することができ、日々の外遊びや給食、毎月の避難訓練の様子などを画像とともに見ることもできる。</p> <p>ブラウザの翻訳機能や見学時の実物の掲示などで多国籍な利用希望者にも対応している</p> <p>日本語での情報提供が難しい外国籍の利用希望者に対しては、子ども・子育て支援情報公開システムで園の内容を紹介し、web検索できる環境を整えている。また、見学等で来園の際には日本語の理解度を確認しながら、行事の内容や一日のタイムスケジュール、延長料金等を園のしおりを使いながら口頭や身振り等で説明し、口拭きタオルやエプロンなどは実物を見せるなどの工夫も見られる。ほかにも、園のホームページについてもブラウザの翻訳機能を使うことで、一定の情報確認ができる旨を個別に伝える等して、外国籍の利用希望者に対応している。</p> <p>見学対応と合わせて保育所体験の参加を促すことで入園前後の認識差異を縮めている</p> <p>見学希望者には個別に対応し、来園の際に入園ガイドを見せながら施設紹介やデイリープログラムの説明等を行った後に質疑応答の時間を設けている。また、園の特色等を説明する際例えば今年度は男性保育士が多く所属している旨も伝えるなど、その時の配置による利点や園として配慮しているポイントなども重点的に伝えている。一方で、見学希望者に対しては保育所体験への参加を推奨しており、日常の保育を体験することで子どもたちの日々の様子を知ることが園選びの参考になることを伝えている。園では保護者が入園前後での認識の違いを持たないように、これらの取り組みを行っている。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
確認済み	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
確認済み	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
確認済み	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリ-2の講評			
<p><b>入園前の個別面談では親子での参加を促すことで子どもの様子も事前に把握している</b>  入園の決まった保護者には電話で面談希望日時を確認し、事前健康診断のお知らせや入園までの生活状況、未摂取食材チェックリスト等の必要書類を事前送付したうえで個別入園面談を実施している。面談では重要事項説明書と園のしおりをもとに持参物や園からのお願い事などを実物も用いて説明し、内容承諾後に保護者から利用契約書等の書類に署名等を得ている。面談の際には子どもの同席を推奨しており、園での遊びの様子なども見ながら子どもの個人面談としての位置づけにもしている。</p> <p><b>子どもの様子と保護者の就労状況に応じて慣らし保育期間の設定を柔軟に調整している</b>  入園に際し、入園までの生活状況や健康記録を基に行う個別面談から子どものプロフィールを作成している。入園直後にはおおむね2週間の慣らし保育時間を設け、子どもの様子と保護者の就労状況によってそれぞれが安心して通えるよう配慮している。慣らし保育期間の原則としてのスケジュールは予め保護者に開示されており、期間中の日別の利用時間や給食、午後おやつ開始日も分かるようになっている。園ではこのような取り組みを通じて、保護者とコミュニケーションを重ねながら通園開始時における子どもの不安やストレスの軽減に努めている。</p> <p><b>転園や退園先の状況を見据えながら子どもの生活習慣支援等を行うことを心掛けている</b>  保護者から転園や退園に関する申し出があった際には個別に相談の機会を設け、退園通知書を介して、その意思や退園先、事由などを確認することとしている。通知書を受け取ったのちに、園では転退園の諸手続きを行うと同時に、保護者に対しても管轄区役所への報告を始めとする必要な対応について説明している。一方で、子どもが転園先でも安心して生活ができるよう園での対応も行われており、幼稚園への転園を希望しているケースでは、排泄トレーニングの在り方を保護者とともに検討するなど、それぞれの状況に応じた配慮も見られる。</p>			

サブカテゴリ3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(000)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		
確認済み	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		
確認済み	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(00000)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		
確認済み	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		
確認済み	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		
確認済み	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		
確認済み	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		



評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
確認済み	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
確認済み	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	
確認済み	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	

サブカテゴリ3の講評

**運営企業統一のシステムを用いながら月間指導計画や身体測定の記録などを行っている**  
 月間指導計画や週日案、日誌等は統一されたシステムを用いて、作成管理を行っている。また、身体測定の記録もシステム化されており、情報の精度や閲覧性の向上を図っている。一方、内科健診や歯科検診、予防接種歴は児童票でペーパー管理されており、発達過程記録も指定の書式を採用している。保護者との日々のコミュニケーションはシステム化された連絡帳を用いており、子どもの様子の記録や保護者ニーズの把握にも役立っている。連絡帳や日々の対話等から把握された保護者のニーズや子どもの課題は日々の昼礼や毎月の職員会議等でも共有されている。

**3か月ごとの子どもの個人記録と毎月の職員会議を通じて個別指導計画を検討している**  
 月齢に応じて3か月ごとの子どもの成長記録を指定の様式で管理している。この様式では主な発達のあらわれを健康生活や人との関わり、ごだば、全身運動、手指の運動知的動き等に区分し、それぞれの発達段階に応じて複数の具体的な状態のあらわれをチェックできるリスト形式となっている。ほかに、該当する3か月間での保育上参考となる事項を自由記述できる欄を設け、子どもの成長の様子をつぶさに記録できるようになっている。園ではこの記録を用いながら職員会議等でその内容を確認し、各クラスでの活動や個別指導計画へと展開させている。

**園の理念や方針に基づいた全体的な計画を策定し日々の活動へと展開させている**  
 園の掲げる全体的な計画は運営企業としての使命とありたい姿から「子ども達の自己肯定感をあげる活動を実践していく」「非認知能力を伸ばし豊かな心を育む」という園の保育目標を基点としている。この計画では園の保育目標実現に向けて保育に関する基本原理や保護者支援等の方針を定め、それぞれの年齢の保育内容へと展開されている。年齢別の年間計画では、それぞれの年間目標が定められ、3か月ごとの子どもの姿や狙い、養護、教育、環境構成が計画されている。園ではこの計画に基づいて毎月の会議等を重ねながら、日々の活動を行っている。

サブカテゴリ5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている		
確認済み	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
確認済み	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		
確認済み	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		
サブカテゴリ5の講評			
<p>人権擁護のためのセルフチェックや園内研修を通じて子どもの尊厳の尊重に努めている</p> <p>園内研修を通じて虐待防止や育児困難家庭への支援の在り方等を学んでいる。特に、子どもの人権擁護についてはその実践を重視しており、全国保育士会が発行する人権擁護のためのセルフチェックリストを活用するとともに、「差別的なかかわり」等の具体例を挙げるなどして職員間での認識の共通化を図っている。また、園の行動規範でも掲げている「主体性」という言葉の誤った理解が虐待や人権擁護の障害にならないよう、職員間で教材動画を視聴し、「主体的な保育」について意見交換するなど、様々な取り組みを通じて子どもの尊厳の尊重に努めている。</p> <p>子どもの羞恥心に特に配慮した環境設定を重視している</p> <p>入園前に個人情報の保護に関する説明を行い承諾書を得ており、重要事項説明書でもスタッフは保護者と子どものプライバシー保護については高い意識を身につけ、十分に配慮を行うとしている。また、一般公開されている園のSNSに掲載されている子どもの写真は顔の部分を見えないように加工するなどの配慮もある。園内においても、子どもの羞恥心に配慮した環境設定を行っており、トイレなども子どもの目線からは周りが見えないつい立を使うなどして、保育士としての安全管理上も支障のない状況としている。</p>			

サブカテゴリ6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	確認済み	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	
確認済み	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		
確認済み	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	評点(〇〇)	
	評価	標準項目	
	確認済み	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	
	確認済み	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	
サブカテゴリ6の講評			
<p>運営企業作成のリスク関連マニュアルや保育関連書籍の拡充で業務水準向上に努めている</p> <p>日常業務での配慮や意見、要望、苦情への対応などを示した保育従事者の心得や保育環境、遊具、玩具の安全と遊ばせ方等の環境整備など、日々の業務に関する手引書を取り揃えている。また、リスク管理に関するマニュアル類は有事の際に迅速に対応できるよう、一連の行動を1枚のフロー図にまとめているほか、職員の記入が必要なものは所定の位置に設置し、利便性や閲覧性を高めている。ほかにも、今年度に注力しているドキュメンテーションなどでは関連書籍の蔵書を取り揃えるなど、書類や書籍の拡充を通じて日々の業務水準の向上に努めている。</p> <p>継続的な園内マニュアルの改訂に加え系列園共通の園長マニュアル改定を進めている</p> <p>系列園も含めた運営協全体の業務変更に関わる内容は本部主催の園長会議等で協議され、各園のマニュアルや重要事項説明書等の変更を行うこととしている。また、園内の業務改善については毎年度末の全体的な計画の見直しを始め、定期的に行われており、年2回の運営委員会や保護者アンケートのほか、園の自己評価の内容も加味されている。一方で、系列園全体のブランディングに関する取り組みも行われており、ミラツツの保育に関する価値観や園長としての判断基準を明確化し、これをマニュアルに落とし込むという活動も進められている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
確認済み	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			
確認済み	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している			
確認済み	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			
確認済み	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			
確認済み	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			
評価項目1の講評				
<p>日々の保育の中で意識的な異年齢合同自由保育を取り入れている</p> <p>職員は、成育歴や個人差、生活リズムなどをふまえて個々の成長や興味を正しく把握し、ともだちとの関わりを通して遊びを広げていけるように環境を整えている。当園では、異年齢の遊びを見て興味の幅を広げ、兄弟関係のない子どもにとっては年齢の異なる子どもとの関わりを通して学べることも多いと考えている。1・2歳児など様々な組み合わせで合同のコーナー遊びを設定し空間を日常的に整えている。</p> <p>子どもが主体的に活動できる環境構成を工夫して整えている</p> <p>園では子ども自らが遊びを選べる環境、子どもの主体性や想像力を重要視した保育を実践することを課題として、日々保育を行っており、そのための環境整備やコーナー遊びについて全体で検討できるように努めている。コーナーには運動遊びコーナー、構成遊びコーナー、ままごとコーナー、絵本コーナーなどがあり、制作は自然の落ち葉やどんぐりなどの素材を用意し、子どもがやってみようと思う時にできる状態を整えている。</p> <p>子ども同士のトラブルに丁寧に対応し、保護者からの高い理解を得ている</p> <p>職員は発達や援助の様々な研修を受講して適切な関わり方を学んでおり、子ども同士のトラブルについてもヒヤリハットを作成している。玩具の取り合いやかみつきがあった場合は、お互いの要求をくみ取り、原因を考え、室内環境を見直している。対保護者には、連絡帳や送迎時の口頭、園だよりなどで今後起きうるトラブルは保護者に事前に知らせ加害被害ではないことを受け入れられるようにしている。自分の意見を言葉で表現できる環境作りや支援も保育者が行っている。1歳児もいけないことは都度話をしながら、繰り返し伝えるようにしている。</p>				

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している
確認済み	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している
確認済み	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している
確認済み	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている

評価項目2の講評

個々の連絡帳や職員間の連絡簿などで個々の様子を引継ぎ、保育に反映している

個々の連絡帳以外にも登園時に把握した情報は職員ノートに記入して職員間で共有し、保育活動に反映している。お迎えの際には、個々の連絡帳に記載した事柄以外にも、個々の成長や様子が伝わる具体的なエピソードを伝えられるように配慮しており、食育活動や行事、日々の遊びの様子などを配信するパスワード付きの動画は保護者も楽しみにしている。

適切な時期に適切な支援を行うことで基本的な生活習慣の習得を促している

1・2歳児は成長の個人差が大きいので、個々の発達を考慮した個人別指導計画を職員間で共有して一貫性のある援助ができるようにしている。また、衣服の着脱や手洗いなど身の回りの生活習慣は、保育士との関わりを通して身につくことも多いと考えており、一つずつ手順を確認しながら丁寧に援助したり、工夫して声をかけることで自発的な行動を導いている。さらに、子どもの気持ちや意欲の状況は保護者とも共有し、自分で着てみたいと思えるように好きな洋服や着脱しやすい洋服を用意してもらうなどの連携を図りながら子どもを支援している。

子どもの睡眠や休息の環境を整え、降園時には一日の様子を丁寧に伝えている

子どもが心地よく睡眠や休息が取れるように午睡チェック表を作成して配慮している。家庭での睡眠の様子を連絡帳や保護者とのやり取りから把握し、子どもの様子に合わせて、必要に応じて事前に睡眠や休息を取れるようにしている。睡眠中は個別に、1・2歳児クラスは10分ごとに睡眠チェックを行い、午睡チェック表に記録している。園と家庭とで睡眠の情報を共有し、生活リズムを整えている。お迎え時は、連絡帳の内容と子どもの可愛かった姿やエピソードなどを丁寧に伝えている。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
確認済み	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
確認済み	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
確認済み	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
確認済み	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
確認済み	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評		
<p><b>子どもが安心して過ごせる空間を整えたうえで遊びや集団活動に関われるようにしている</b></p> <p>保育士との愛着関係や信頼を深め、安心してともだちへの興味関心へと広げていけるように、温かく受容的・応答的な関わりを心がけて接している。また、好きな玩具を自由に取り出せるコーナーや子どもたちがじっくり遊べる環境を整えている。また運動コーナーは安全に配慮した上で室内でも身体を動かせるような遊具を設置している。体を休めなくなったときようにソファも置いている。朝のおやつ前にみんなで手遊びやピアノの伴奏で歌を歌うことを楽しんでいる。昼食は保育者も一緒にとる機会を設けて苦手・美味しいなど伝え合いにつながっている。</p> <p><b>遊びと歌が感性を育む重要な手段として取り組んでいる</b></p> <p>園では言葉に対する感覚を養えるよう子どもの気持ちに寄り添いながらたくさん話しかけ、言葉で代弁することで伝える意欲を育てている。保育中も求めに応じて繰り返し絵本の読み聞かを行うことで絵と内容がリンクするだけでなく、色への興味や、何気ない活動の中で口にするなど、言葉のきっかけづくりにもなっている。手遊びやわらべうたも保育中に取り入れて繰り返し、身振り手振りで伝える機会を作っている。時間や空間を決めるのではなくより身近に感じられるよう普段の生活の中で保育者も歌ったりしている。</p> <p><b>近隣公園の自然環境を存分に楽しみ、ルールある遊びも見通しが持てるように伝えている</b></p> <p>戸外活動においても、その時期ならではの自然物や自然事象に触れる経験を重ねることで子どもの意欲や好奇心を高め、言葉や感性も広げていけるようにしている。近隣には豊かな自然環境があり、道中の行き来も楽しめるようにしながら四季折々の変化を楽しんでいる。だるまさんが転んだ、帽子取りなどルールのある遊びを取り入れる際は、大人や他児の行動を見て自分で気づけるような声掛けをしている。見通しが持てるよう「これをしたら次はこれができる」を伝え、見守り待つ時間を大切にしている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
確認済み	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
確認済み	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評		
<p><b>子どもたちの興味と関心を引き出す環境づくりと成長を促す行事の計画が作成されている</b>          行事の内容は、子ども達の様子を報告し合って検討しており、行事があるから物を作ったりではなく、行事を通じて興味関心を抱き、自身で取り組みたいと思えるよう環境を整えたり、保育者の配慮がされている。また、行事の前から遊びの中で役割が持てる遊びが楽しめるような環境づくりを行い、買い物ごっこやお店番、行事で使うものを制作遊びで作って楽しめるように配慮している。行事の為の練習等は極力行わず、普段の子ども様子がそのまま表現できることを目標にしている。</p> <p><b>行事への取り組みを積極的に保護者に紹介している</b>          保護者には園だよりやシステム配信のお知らせをでどのようなねらいの行事かを事前に周知している。また、行事に取り組む子ども達の様子は連絡帳やドキュメンテーションで配信し、子ども達のみで実施する行事に関しては、動画を撮影してパスワード付きで配信して紹介している。運動遊びや発表会などを通して子ども達が豊かな活動を体験している。</p> <p><b>柔軟な発想と経験を活かした行事運営しているが、伝統形成と年度調整を検討されている</b>          保育士の経験者が多いので自身の経験を基に小規模で楽しめる行事など意見が多く出ることもあってか、係を中心に全員で取り組んでいる。前例踏襲の考えでなく子どもの姿に合わせた柔軟な発想で自ら考え、行動されている。6年目の園であるが職員の入れ替わりが多く、まだこれといった園の伝統的な軸が形成されていないため、行事を継続して行える内容にしていながらもその年度にあった行事を組み込めるような仕組みが必要とされている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
確認済み	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	

評価項目5の講評

**自由遊びと長時間保育はスムーズな適応と安心な環境が配慮されている**  
 月間指導計画の中に長時間保育カリキュラムを組み入れ、それに基づいて保育が行われている。登園時間帯は自由遊びをしており、遅れて登園した子どももスムーズに遊びの輪に入っている。子どもたちは降園まで同じ部屋で、クラスに分かれたり一緒に遊んだりして過ごしている。子どもたちが自ら選んで遊べる環境を構成したうえで、子どもの様子や求めに応じた配慮ができており、保護者も子どもも安心して通い過ごせる環境が整っている。保育室には、絵本、おもちゃなどコーナー遊びを設定し、落ち着いた家庭的な雰囲気を整えている。

**静かな遊びと活動的な遊びのバランスを保つことで、子どもたちの成長を促している**  
 遊びのスペースや、子どもが遊びたい遊びを選べるようにしている。職員が工夫を凝らし、年齢の違う子どもたちが安全な環境の中で楽しく遊べるよう十分に配慮している。ブロックやパズル、絵本などの静かな遊びが好きな子どもの中で、活動的に遊ぶ子どももいる。日々の活動の詳細は日誌に記録している。新しい玩具を出して終わりではなく、それを使うことで子どもたちのどういう発達を促していき成長に繋げていくかを話し合っ環境を改善している。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
確認済み	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
確認済み	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
確認済み	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
確認済み	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	

評価項目6の講評

**テーブルあたりの人数にゆとりを持たせ子どものペースで食事のできる環境を作っている**  
 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるよう、園では1テーブルあたりの人数にゆとりを持たせいる。また、手でつかんだり食具を使いながら楽しい食事となるよう、職員も配慮を行い、決して無理強いをしないことを注意している。メニューでは季節の食材を取り入れながら、見た目にも楽しい内容を心掛けており、毎月の給食会議では日頃の喫食状況や子どもたちの反応を振り返りながら、食材の大きさや味付けを考慮しつつ翌月の献立を話し合うなど、園の職員が一体となって子どもにとってより良い食事の環境を整えている。

**専用の机や食器を用意し提供も別途行うことで食物アレルギー対応を講じている**  
 子どもが安全に食事をとれるよう、園の給食で使用する食材をチェック表の形式で保護者に配布し、家庭での事前の喫食を促している。また、食物アレルギーのある子どもに対しては、アレルギー除去食依頼書とともにアレルギー疾患生活管理指導表の提出を求めている。園ではこの内容に沿ってアレルギーのある子どもへの給食対応を行っており、専用の机と食器を用意し、調理者から直接保育者に手渡しで食事を提供することで、誤りを防いでいる。宗教に関わる食事の提供についても同様の方法で進めており、弁当の持参も可としている。

**夏野菜のプランター栽培やスタンプづくりなどの食育活動に取り組んでいる**  
 食育年間計画を定め、3か月ごとの狙いに応じた毎月の食育活動を行っている。食育活動は2歳児を対象に企画しながらも1歳児も参加できる内容としている。活動は多岐に渡っており、10月にはハロウィンにちなんで2歳児はかぼちゃクッキーを型抜きをする一方で、1歳児の子どもたちもかぼちゃの種取りなどを行っている。園内の野菜の栽培も行っており、育てたオクラで野菜スタンプを作るなどの活動も見られた。ほかにも、トウモロコシのおいを嗅いだり、ラップでおにぎりを作るなど、様々な活動を通じて子どもたちの食に対する興味関心を育てている。



7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
確認済み	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
確認済み	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	

評価項目7の講評

遊具の安全点検や手洗いを保育者と一緒に行うことで子どもの安全への意識を高めている

戸外活動では保育者が公園の遊具等の安全点検をする様子を子どもに見せながら、遊ぶ際の約束事を説明している。特に、階段のある遊具は必ず保育士と一緒に使うことや自分ひとりで登れない所には行かないなど、大きなけがにつながる恐れのあるルールについては重点的に伝え、子どもが自らがけがを防止できるよう働きかけている。園内でも手洗いや水分補給、鼻を拭く習慣がつくよう、毎日同じ日課として繰り返しており、子どもたちの病気予防を促しているほか、食育でも日々の食事からとれる栄養の大切さを伝えるなど、子どもの健康維持に配慮している。

入園前の状況把握から日々の記録を通じて保護者とともに子どもの健康維持に努めている

保護者と連携しながら子どもの健康維持を図るべく、入園面談時に「入園までの生活状況」の内容を確認したうえで、日々の保育に臨んでいる。面談では子どもの運動や食事、睡眠の様子のほか、保護者の気になる点なども確認している。園ではこの情報に基づいて子どもの健康管理に努めており、日々の午睡でも家庭での寝つきや寝方等を踏まえながら10分に1回以上のプレスチェックを行うことで乳幼児突然死症候群を予防するほか、保護者に対しても掲示板を通じてあおむけの推奨案内を行うなど、家庭と運動した子どもの健康維持に取り組んでいる。

大田区による病児保育送迎サービスにより子どもの急な体調不良に対応している

子どもの急な体調不良等に対応すべく、大田区による病児保育送迎サービスを利用している。このサービスは保護者が仕事などで体調不良の子どもを迎えに行くことができない場合に、保護者に代わって看護師もしくは保育士が保育園に子どもを迎えに行くという内容であり、対象の子どもは区内の病児保育施設で保護者の迎えを待つこととなっている。このサービスは事前登録書と同意書の提出が必要になることから、園でもこの内容を保護者に周知している。ほかにも、大田区から発信される有用情報を活用しながら保護者とともに子どもの健康維持に努めている。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
確認済み	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
確認済み	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
確認済み	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
確認済み	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	

評価項目8の講評

日々の対話や保育環境に関する意思の疎通を通じて保護者との信頼関係を醸成している

運営企業ホームページのトップメッセージに「働く女性をサポートし、子どもがいても安心して働ける社会へ」を掲げる同園では、保護者が安心して子育てのできる支援に注力しており、連絡帳や送迎時の保護者との対話を通じて知りえた情報を基に、適宜面談等を設定し、それぞれの事情に合わせた保育環境の整備に努めている。特に昨今の園の運営体制変更に伴い、保護者との意思疎通には力を入れており、土曜日保育の望ましいあり方を啓発する一方、園内の保育環境の変化に対する保護者からのフィードバックを意欲的に取り入れる等の事例も見られた。

保護者会や運営委員会の開催等により保護者同士の交流の促進を図っている

子どもたちの普段の様子を保護者と共有し、保護者同士の交流も深めることを目的に保護者会を開催している。この会は園長や職員の挨拶から始まり、保護者同士が自己紹介や子どもの家庭での様子を伝える場を設けることで、コミュニケーションをとりやすい環境を作っている。また、職員からは子どもたちの日々の様子が紹介され、5月に行われた際には、散歩や室内での生活、給食の様子などが具体的なシーンとともに紹介された。ほかにも、保護者としての意向と園の取り組みをすり合わせる運営委員会を設けることで保護者と園との意思疎通も図っている。

保育参加や日々の活動の動画配信を通じて保護者との共通認識と養育力向上を促している

今年度の10月より保育参加を実施している。このイベントでは保護者に園での様子や保育士と子どもとの関わりを見ることで、園に対する理解を促すとともに保護者の養育力向上を図っている。保育参加は1日1組とし、朝の会から午前中の主活動ののちに給食の試食という流れになっており、その後には感想の確認と面談の機会を設けている。また、保護者に対する情報開示に努めている園では専用のアプリを用いた動画配信にも取り組んでおり、随時日々の活動を数分間にまとめた動画を作成し保護者に視聴を促している。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
確認済み	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評		
<p>児童館の活用や近隣商店との交流を通じて子どもが多様な体験ができる機会を作っている</p> <p>園近隣にある大きな公園には機関車やスペースシャトルを模した遊具があるほか、小川も流れており、子どもたちは恵まれた地域環境の中で日々の生活を送っている。また、公園に隣接する児童館は地域の民生児童委員の協力を得ながら運営されており、子どもたちにとってもくつろぎの場所となっている。地域の商店街との交流も活発に行っており、近隣スーパーマーケットでの制作物の掲示や給食の食材を仕入れている先とはハロウィンのイベントを一緒に行っている。これらの取り組みを通じて園では地域資源を活用した子どもの生活の拡充を図っている。</p> <p>高齢者施設への訪問や中学生の職場体験等により職員以外の人との交流機会を設けている</p> <p>職員以外の大人たちとの交流機会を広げるよう、園では地域の高齢者向け施設に赴き、利用者等と一緒に過ごす時間を設けている。高齢者向け施設では子どもたちが普段行っている体操やダンスを披露する一方で、施設利用者からは折り紙等を教わっている。また、例年では高齢者向け施設の利用者が手作りした卒園式の飾りを贈られるなどの交流もある。中学生の職場体験や高校生ボランティアの受け入れも積極的に行っており、今年度も3名の中学生が3日間にわたって園に訪れ、子どもたちと遊びや食事などの時間を一緒に過ごしていた。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
確認済み	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
確認済み	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
確認済み	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
確認済み	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
確認済み	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
確認済み	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p>利用者の意向を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている</p> <p>苦情解決要綱の玄関掲示、重要事項説明書での入園児説明、区からの相談窓口を玄関掲示で案内している。苦情解決要綱に受け担当、解決担当者を決めており、第三者委員を介入させることもできることを明示している。また社のホームページからも問い合わせが可能となっている。普段の関わりの中で小さいトラブルなどはその場で解決または早い段階で共有し解決に取り組んでいるので、大きなトラブルに発展することはない。</p> <p>虐待の防止と早期発見、早期対応を行う体制を、組織として整えている</p> <p>保育者同士の日々の言葉遣いは、保育者、保護者、子どもへの声掛けにも十分に留意している。社会人としてのマナーにも日頃から気を付け、保育も複数の目で必ず行っている。送迎時の保護者対応も複数の目で対応を行う様にし、異変や疑いを感じた際は保育者間での共有のもと、園長や主任にも相談を行うようにしている。年に一度の人権擁護チェックシートの活用と毎日の昼礼での保育の振り返り、研修の受講が行われている。異変や疑いを感じた際は一人で抱え込まず主任や園長に相談のもとで関係機関へ相談している。</p> <p>事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる</p> <p>日々のヒヤリハット記入や昼礼での振り返り、早番遅番の安全点検、毎月の避難訓練、定期的な事故防止チェックリスト、年度末の各種マニュアル・安全計画の見直しの実施でリスクを洗い出して必要な対策を講じるように進めている。各種マニュアル整備を行い、総合的に事業継続に向かうようにしている。コロナの際にBCPは策定したが、BCPという形でのその他の災害用の策定が期待される。様々な環境を設定しての訓練や定期的な訓練、見直しを行っている。課題が出たものは意見徴収を行いながら対策を検討している。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	積極的な情報開示を通じて保護者が安心して子育てのできる環境を整えている	
内容①	<p>「働く女性をサポートし、子どもがいても安心して働ける社会へ」という企業のトップメッセージにあるよう、園では保護者が安心して子育てのできる環境整備に注力しており、積極的な情報開示を通じて保護者との連携を深めている。情報開示は様々な方法で行われており、子どもたちの活動の様子を数分間の動画に編集したものを専用のアプリで配信するほか、今年度から開始した保育参加では1日1組限定で、朝の会から園での生活に参加し給食の試食の後には面談の機会も設けている。ほかにもアンケートで保護者意向の把握を行うなどの取り組みも見られる。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの心と身体の健康を育むために、全身を使う遊びと食事の楽しさ、安心できる環境の提供を行っている
	内容	子どもが健康で安全な生活を送ることができるように、身体を動かす活動に力を入れている。身体を十分に動かすことが、心と身体の健康を育む基本とし、走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど全身を使う遊びを楽しんでいる。また、食事の時間を通して、食べることの楽しさを伝えている。子どもが安心して心地よく過ごせるような環境として、室温や物の配置、身の回りの掃除など子どもが健康に過ごせるようにしている。情緒の安定を図ると同時に、身の回りのことに興味を持ち自分でやりたいという意欲を育てている。
2	タイトル	子どもの健康と安全には、基本的な生活習慣の育成と家庭と園の連携がとられている
	内容	子どもが健康で安全な生活を送ることができるように、必要な生活習慣を身につけることに取り組んでいる。例えば着脱はきかえ遊びを用意し、遊びから自然に身につくよう進めている。歯磨きは事故リスクから未導入とし、食後はお茶を飲むことで口腔衛生を保つ工夫がされている。これらの取組は子どもたちの健康と安全を確保し、自立を促すための重要な基盤となっており、保護者とのコミュニケーションを通じて、家庭と園の連携を強化し、子どもの成長を全面的に支援している。「継続は力なり」で子どもたちの健やかな成長を支えることが大切だろう。
3	タイトル	子どもの羞恥心やプライバシーを始めとする権利擁護を考慮した園の運営を心掛けている
	内容	職員男性構成比の高さが保護者に不要な懸念を発生させないよう、子どもの羞恥心に配慮した環境設定には特に気を付けており、トイレでは子どもの目線から周囲の見えないつい立をするなどして、安全面も両立した状況を整えている。また、園の行動指針でも掲げている子どもの主体性の発揮がかえって過剰な負担にならないよう、園内研修を通じて職員それぞれの解釈や具体的保育の実践について意見交換を行っている。ほかにも園のSNS投稿では子どもの顔写真が見えない加工をほどこすなど、子どものプライバシーにも配慮した園運営を行っている。
No.	今後の課題と思われる点	
1	タイトル	園の利用希望者に対する一層の情報提供と園のブランド訴求の一層の充実が期待される
	内容	園の利用希望者に配布される入園ガイドには保育理念や年間行事、デイリープログラムのほか、入園時の準備物や園の利用規約などが掲載されているが、運営企業のホームページやパンフレットにあるような園のブランドコンセプトに関する情報は限定的となっている。一方で、園のホームページには園の基本情報のほか、日々の生活の様子を表したSNSのサイトを設けているが、更新は月数回程度にとどまっている。園ではこの状況を課題とし、更新頻度の向上やテーマ別の情報掲載を検討しているところであることから、この取り組みの早期実現が望まれる。
2	タイトル	園長を始めとする園の経営層が担うマネジメント業務の平準化が期待される
	内容	保育に関する日常業務や園運営に関するリスクマネジメント対応は手引書やマニュアルにまとめられ、迅速な対応が求められる緊急対応をフロー図にまとめ、入力が必要な書式には利便性高い設置も行われている。一方で、系列園も含めた保育コンセプトやこれを実現するための園長を始めとする園の経営層の価値判断の統一には課題が残り、これを解決するための園長マニュアルの整備が進められている。運営企業の掲げる使命やありたい姿を実現するためにも、これらの課題解決につながるような園長向けマネジメント業務の平準化が期待される。
3	タイトル	地域と一体となって子育て家庭をサポートするためのBCPの拡充が期待される
	内容	園運営に関するリスクマネジメント対応は運営企業の作成するマニュアル類にまとめられているほか、虐待防止に関する研修の実施や権利擁護のセルフチェックなども行われている。また、園の事業継続計画の策定にも取り組んでおり、新型コロナウイルス感染対策計画ではBCPの発動条件や組織体制のほか、子どもの受入れ・保育時健康観察や事業継続に必要な物資・サービスの確保、事業の再開に関する条件などを定めている。今後は園の立地上策定が望ましい、水害や震災発生を想定した事業継続計画の策定と有事の際の遂行力を高める職員周知などが期待される。